
雪月花

水瀬憂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪月花

【Nコード】

N7216Y

【作者名】

水瀬憂

【あらすじ】

誰かに何かを伝えたくて、芸術の道を歩いている。けれど、疼く古傷を抱えきれなくなったとき、誰に何を伝えたらいいのか、それさえわからなくなった。

第一章（０）

舞台袖からフィルハーモニーの天井を見上げる。澄んだ白磁と琥珀色の内装に、シャンデリアが眩しい。期待にざわつく聴衆。五年に一度のファイナリストを待ちわびるオーケストラ。演出された絢爛なクラシックの舞台を前にして、音楽の聖域へと立ち入るような緊張で足が竦んだ。それでも、純白のロングドレスを翻して一步を踏み出してしまえば、そこは確かに私が主役の舞台だ。

ワルシャワフィルに支えられて演奏することができると名誉と高揚感に胸を揺さぶられながら、客席と向き合う。深々とお辞儀をして、スタインウェイの前に腰掛ける。ドレスの裾を正して、ちゃんと背筋を伸ばす。静まり返った会場の雰囲気、私に合わせて調律するように、深呼吸。

指揮者の目配せに肯いて、第一楽章の冒頭主題を聴く。ショパンの『ピアノ協奏曲第一番』だ。あえて強く叩いた一打から主題をなぞり、天使に手を引かれて、即興的なパッセージで築かれた螺旋階段を昇っていく。透明感のある神秘的な第二楽章では、心からの憧憬を込めて、空の向こうまで届くようにと願いながら、弾いた。そして、第三楽章のロンド。溢れだしそうな熱を抑えながら、鮮やかな旋律を展開していく。すべてが収束してしまえば、あとは自由に踊りまわるだけのコーダ。気分でアクセントをつけ、溜めこんだエネルギーを解放する。

楽しい。こんなに純粋な気持ちで演奏ができたのは、いつ以来だろう。最後の一音の鍵から指を離して、オケの締め括りとともに、詰めていた息を吐き出した。瞬間、湧きあがる歓声。満場に響き渡る拍手。火照った身体に満足感が染み込んでいく。息を整えながら、桜をあしらったネックレスを手にして、瞑目する。感謝の意を表すために立ちあがった私は、懐かしいあの日々と同じように笑っていたと思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7216y/>

雪月花

2011年11月21日16時31分発行